深 圳 レ ポ ー ト

2019年中国のライブ配信産業の市場現状と発展傾向の分析
2019年に中国のライブ配信産業のプラットフォーム管理と規則化の進展は継続的に続いている

ポイント:

●中国のライブ配信産業の発展状況分析
●2018年ライブ配信者の従業状況
●2018年ライブ配信者収益指数
●ライブ配信業界のルール状況分析

関連サイトURL:

「贛南日報――ライブ配信産業のルールが徐々に改善されている」
https://bg.qianzhan.com/report/detail/300/191029-db68392a.html

中国のライブ配信産業の発展状況分析

現在は、スマホ1台又はマイク1本で、食事を生放送したり、生放送で歌を歌ったり、物の販売、ゲーム中継、さらに生放送で宿題をするなど、視聴者が思いつかないようなことも、配信者は何でもやるという状況となっている。

調査研究によると、中国のネット配信は2005年に始まり、初期では一部のプラットフォームがビデオチャットサービス業務を開発したことで、生放送モデルのプロトタイプが形成された。2009年から2013年まで、生放送モデルが注目され始め、多くのPC側のライブ配信プラットフォームが市場に参入し始めた。2014年から2016年にかけて、ライブ配信プラットフォームは爆発的な成長を遂げ、その中でも、2016年は、「中国のライブ配信の元年」とも呼ばれている。モバイル生放送は4Gネットワークによって絶頂期に入り、中国のライブ配信プラットフォームの数は200を超えた。

現在、中国のライブ配信業界は徐々に成熟期に入りつつあり、「映客」、「虎歯」、「斗魚」などのプラットフォームは、差別化の開発を通じて業界競争で核心的な優位性を獲得し、次々と上場している。2019年上半期に、各ライブ配信プラットフォームは「生放送+」モデルを積極的に検討し、Eコマース、ショートムービー、その他のプラットフォームも生放送の要素を積極的に入れて、より多くの閲覧量とビジネス収益をもたらすようになり、ネット配信業界では生放送が引き続き流行となっている。

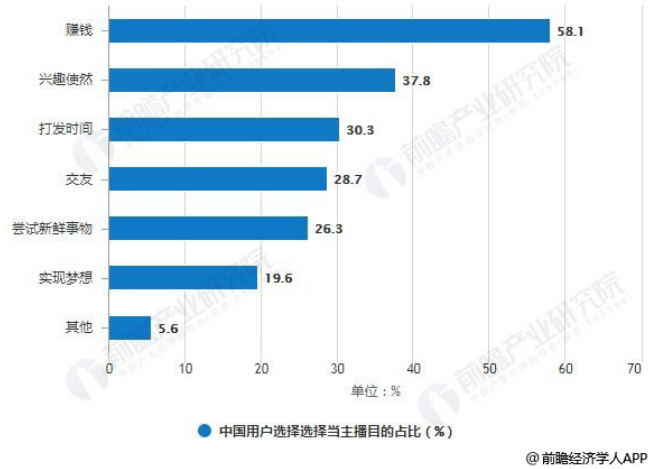
ライブ配信人気配信者によるライブ販売は引き続き人気があり、芸能人も商品を販売するために続々とライブ配信プラットフォームに参入している。「口紅兄さん」と呼ばれる万能セールスマンの李佳琦、「ツバメ」と呼ばれる芸能人趙薇は赤ワインをライブ販売する…そしてeスポーツ、教育、eコマースなどと組み合わされた「生放送+」の新しいモデルは、ライブ配信業界に新しい発展動力と機運をもたらした。

CNNIC（中国ネットワーク情報センター）が発表した第44回「中国インターネット網の発展状況統計調査」によると、2019年6月までの全国ライブ配信利用ユーザーの数は4億3300万人に達し、2018年末より3646万人増加し、ネットユーザー全体の50.7%を占めた。このうち、エンタメ系ライブ配信とスポーツ系配信のユーザー数は、それぞれネットユーザー全体の24.0%と22.7%を占め、2018年末と比較して4.3%と1.5%増加し、ゲーム配信とコンサート配信のユーザー数ははそれぞれネットユーザーの28.4%、13.6%を占め、2018年末とほぼ同じ水準となった。2018年全体で配信者だけでも200万以上のアカウントが増えている。

▲2016-2019年6月
中国のライブ配信ユーザーの規模と
全国ネットユーザーの割合状況分析
データソース:前瞻産業研究院のまとめhttps://bg.qianzhan.com/

2018年ライブ配信配信者の従業状況

お金を稼げて、交友も広がり、夢もある。ライブ配信業界に進出し、配信者になることはごく普通のことになりつつある。Momoプラットフォームが出している「2018 Anchor Career Report」によると、6割近くの人がお金を稼ぐために配信者になることを選択しており、37.8%の人がライブ配信に興味を示していて、30.3%の人が暇つぶしのためにライブ配信業界に進出することを示している。何らかの理由で、各ライブ配信プラットフォームには毎日新鮮な血液が注入されており、ライブ配信者たちは成長を続けている。2018年、プラットフォーム全体の新規配信者の人数は217万人で、前年比で49.6%増加した。配信者に投げ銭などのプレゼントをする人数は1億人を超えており、増加率は63%で、プレゼント年間売上は500億元（約7700億円）を超えている。



▲中国のインターネットライブ配信者の従業動機統計
データソース:前瞻産業研究院のまとめhttps://bg.qianzhan.com/

関連する調査レポートによると、2018年の中国のライブ配信プラットフォームのトップクラスの配信者男女比は基本的に同じで、男性の割合は50.8%となっている。生放送タイプでは、4割以上がエンタメ系の配信者で、ゲーム配信者とショー配信者がそれぞれ27.3%と23.5%を占めている。東部地域にはさらに多くの配信者がいて、トップクラス配信者の30%は中国東部に存在し、中国北部は20%近くを占めている。相対的に言えば、経済的に発展した地域は、エンターテインメント文化の消費に積極的で、配信者に必要な技術サポートと資本サポートもより簡単に得ることができるという。

2018年ライブ配信者の収入指数

関連するレポートデータによると、2018年のライブ配信プラットフォーム配信者収入指数のTOP10ランキングで、「ペンギンeスポーツ」（テンセント傘下の大手eスポーツプラットフォーム）ゲームの配信者「耀神」の収入指数が1位になり、2位の配信者「徐若汐」と大きな差を開いている。「花椒」は生放送の高収入配信者が多く、収入指数トップ10では3つランクインし、「斗魚」と「映客」はそれぞれ収入指数TOP10に2つ入っている。

▲2018中国ライブ配信プラットフォーム
トップ配信者収入指数TOP10統計
データソース:前瞻産業研究院のまとめhttps://bg.qianzhan.com/

ライブ配信業界のルール状況分析

配信者は常に成長しており、ライブ配信を利用したギャンブルや配信者による不適切なスピーチなど、付随する問題はますます顕著になっている。ポータルエントリバリアを設定し、ネット配信行為の監視を強化するというトピックは、業界で白熱した議論を引き起こしている。実際、中国でのライブ配信プラットフォームの管理と標準化が進んでいる。

2016年9月、中国広電総局はインターネット視聴番組の生放送機関に対してライセンス経営が必要であることを通知した。同年11月、国家インターネット情報局は「ライブ配信サービス管理規定」を制定し、ライブ配信プラットフォームに対する法律監督をさらに強化した。2017年には、「ネット公演運営活動管理方法」が実施され、ネットの生放送行為に対してより詳細な規制が行われた。また、ライブ配信業界内でも業界の健全な発展を積極的に推進し、各プラットフォームが傘下の配信者の育成と管理を強化している。

感情計算と言語解析を得意とするAI開発・ロボット開発。無人化を推進。

社名	深圳懂你机器人科技有限公司		英語名	iknow.ai	
代表者	周志洋		URL	http://www.storeall.cn/	
所在地	深圳市南山区大冲国際中心 1208				
売上 (RMB)	N/A	従業員（人）	50	創業年	2016.05.19
資本金 (RMB)	200 万（約 3,000 万円）				
サービス内容	AI システム開発および自社ロボット製品の開発				

iKnow.ai

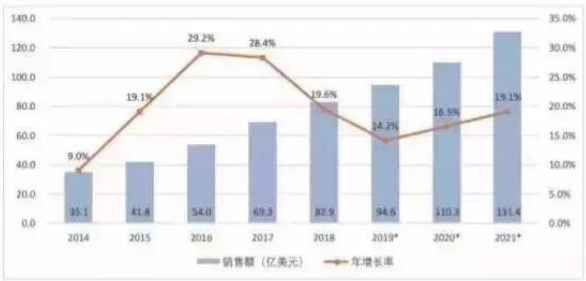
概要:懂你科技はロボット開発をコア技術として、BtoB向けのハードとソリューションを提供する会社である。RPAではなく、実際にこれまで人間がやっていた労働をロボットに置き換えることでコスト削減ソリューションを提供する会社である。これまで小売業界、医療・介護業界、ホテル業界、教育業界などの市場にてロボット導入実績を多数有する。

具体的には店舗などでの送迎、セキュリティ、物流などの領域ですでに製品を有しロボットによる人間労働代替案を提供している。

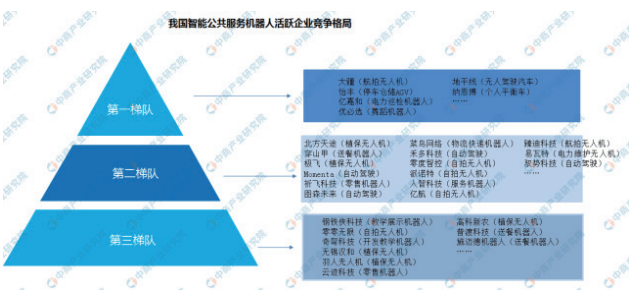
ロボット製造に関わるコア技術としてはロボットを支える骨組み、SLAM（お掃除ロボットのように自己位置推定と環境地図作成を同時に行うこと）、画像解析カメラ、自然言語処理などがある。

コンピュータビジョンとマシンラーニングを通じて商品識別、情景識別、文字識別、人間の状態や顔の識別と分析に強みがあり、リアルタイムでのサービス提供を実現している。

また、自社でカスタマーサポートを有し、例えば小売起業での実際の販売コンサルティングを行うなどユニークなサービスを提供している。



▲2014-2021年 全球的服務机器人銷售額及増長率
資料来源:IFR、中国電子学会整理



▲資料来源:中国電子学会整理、中商産業研究院整理

■業界ポジション:先進的な計算方法を利用したサービスロボットシステムを提供する企業

サプライヤーとの提携

複数のハードウェアサプライヤーとの提携により、顧客のニーズや好みに合わせて最も適したロボットを作成する。

インタラクティブコア技術:

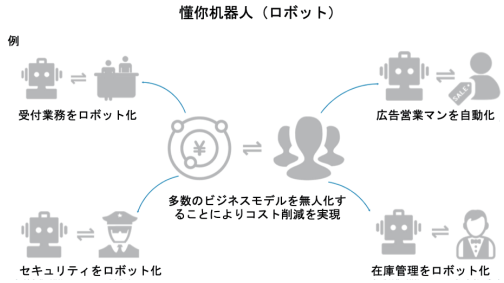
感情計算を含む、先進的な計算方法を提供。各ビジネスに必要な情報をロボットに学習させ省人化をスムーズに行わせる。

ユーザー画像分析:

サーバーと現場をリアルタイムで通信し、例えばセキュリティなどにおいては特に人物の画像解析や状況把握などの面において効果を発揮する。

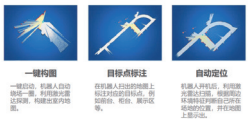
オーダーメイドサービス:

顧客の使用場所やニーズに合わせて、ロボットの機能をカスタマイズすることができる。



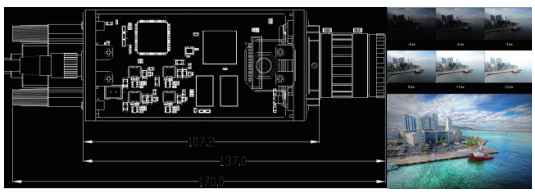
▲引導机器人:自主導航帯路、業務咨詢解答

▲安防形机器人:自動巡邏、高清4K監控



▲軟件研発-室内自動導航定位

▲硬件研発-第三代底盤以及SLAM算法



▲光感攝像頭 — 圖像采集成像

コンサルタントEYE

「同時通訳はオンライン遠隔時代に」

唯来企業管理咨詢（深圳）有限公司
副総経理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。現在はクロスボーダーM＆Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M＆Aサービス担当。

日本は令和初の年越しと令和で迎える新年となり、清々しく新しい年を迎えられたことと思います。

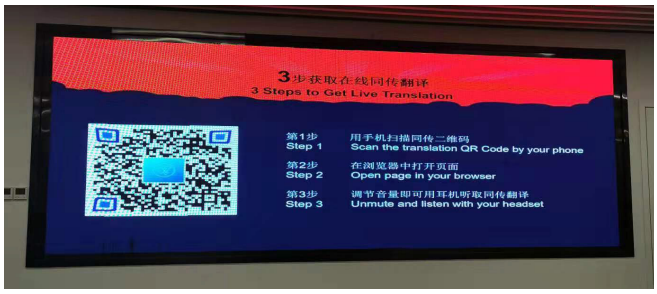
中国は1月1日の1日だけが法定休日となっていて、旧暦の正月である「春節」が1月25日に控えているので、いつもと変わらない日常が流れていました。

ただ、暦的には新しい年を迎えているので、12月末から1月にかけて、2019年振り返りと2020年を見据えてたくさんのイベントが開催されています。

赤いシリコンバレーと呼ばれている、ここ深圳には海外の組織や会社と提携したイベントが多く、同時通訳が必要となるシーンがあります。

同時通訳と聞いて、同時通訳者が専用ボックスに入り、来場者達にチャンネルを切り替えることができる端末とヘッドホンが配布されるケースをお考えかもしれませんが、スピードと効率が求められる深圳では、小規模のイベントでオンライン遠隔方式が見られます。

同時通訳者達は現場に駆け付けることなく、事務所または自宅にてオンラインで同時通訳を実施します。来場者達はヘッドホンを使用せず、携帯電話でQRコードを読み込み、携帯電話用のイヤホンで通訳内容を聞くことができます。



【必要なステップはたった3つ】
ステップ1　携帯電話でQRコードを読み込み。
ステップ2　ブラウザからページを開く。
ステップ3　携帯電話からイヤホンで同時通訳の音声を聴取。

専用設備がほぼ必要なく、同時通訳者が現場に来ることもないので交通費もかからず、コストがかなり削減できるため、コスパが良いからと主催者側が気軽に同時通訳を設定することができます。

また、素敵なことに、イベントで映される資料をカメラで撮る必要もありません。主催者と講演者が了承をした場合、イベントで使用される資料は下記のようにブラウザで見ることができるので、画面キャプチャーをするだけ良いのです。（紙ベースでの資料配布も必要なくなります。）

最近Tencentのイベントで利用された、Akkaduという遠隔オンライン同時通訳サービスは、2019年10月100万人民元（約1,500万円）のエンジェル投資を受けているとのことでした。

これからの時代、更に国境を超えた交流が深まると思われる中で、言葉が障壁にならないこのようなツールの発展を期待しています。

（レポートは 2019 年 11 月 6 日現在の情報）

MICS

深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区軟件産業基地5E棟522号　518061
TEL:86-135-3089-3085
https://micsz.jp/